

# 令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
		国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	184	55	51	4.7	8.0	511
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年 9月2日	学校	185	69.6	55.2	61.0	51.7	64.4	4.2	4.7	8.6	6.5	3.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年 1月14日	学校	195	67.4	49.8	59.9	49.0	62.2	6.5	5.5	10.4	5.0	6.4
	大阪市	—	65.2	42.6	56.0	47.9	52.4	6.6	6.1	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	43.5	55.0	46.7	51.8	7.3	6.4	11.7	5.0	7.6
1年 1月14日	学校	167	69.9	64.4	61.5	75.3	74.7	6.4	2.7	8.7	3.0	2.8
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.3	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はB問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】	
		(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	
3年 10月7日	学校	182	128.8	118.8	163.1	102.0
10月7日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点	
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)	
2年 男子	学校	177	30.80	27.00	49.20	52.01	82.79	-	7.96	188.72	20.42	43.51
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	-	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	-	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	24.00	22.89	55.01	48.63	55.63	-	9.15	167.97	11.81	50.54
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	-	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	-	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 餘江中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語> 平均正答率は55点で、全国と比較して0.7点上回る結果で、大阪市と比較して3点上回った。

平均無回答率は4.7%で、全国6.7%大阪市6.8%より良い結果であった。

[学習指導要領の内容より]

「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は53.6点で、全国と比較して5.5点、大阪市と比較して5.7点上回る結果であった。

「話すこと・聞くこと」の領域は51.9点で、全国と比較して1.3点下回る結果であったが、大阪市と比較して1.5点上回る結果であった。

「書くこと」の領域は51.8点、全国と比較して1点下回る結果であったが、大阪市と比較して1.2点上回る結果であった。

「読むこと」の領域は66.8点で、全国と比較して4.5点、大阪市と比較して5.8点上回る結果であった。

(課題)「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で少しながら全国を下回っていたので今後の課題である。

<数学> 平均正答率は51点で、全国と比較して2.7点、大阪市と比較して5点上回る結果であった。

平均無回答率は8%で、全国10.6%大阪市11.2%より良い結果であった。

[学習指導要領の領域より]

「数と式」の領域は46.8点で、全国と比較して3.3点、大阪市と比較して5.4点上回る結果であった。

「図形」の領域は48.1点で、全国と比較して1.6点、大阪市と比較して2点上回る結果であった。

「関数」の領域は54.5点で、全国と比較して6.3点、大阪市と比較して7.9点上回る結果であった。

「データの活用」の領域は59.2点で、全国と比較して0.6点、大阪市と比較して5.2点上回る結果であった。

(課題)すべての領域で全国・大阪市を上回っていたが、「データの活用」の領域では0.6点と少なかったため今後の課題である。

<理科> IRTバンドの割合は511点で、全国と比較して8点、大阪市と比較して22点上回る結果であった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

<国語> 平均点は69.6点で、大阪府と比較して5.4点、大阪市と比較して4.8点上回る結果であった。

平均無回答率は4.2%で、大阪府と比較して2.6ポイント、大阪市と比較して1.9ポイント良い結果であった。

<社会> 平均点は55.2点で、大阪府と比較して4点、大阪市と比較して3.7点上回る結果であった。

平均無回答率は4.7%で、大阪府と比較して1.8ポイント、大阪市と比較して1.1ポイント良い結果であった。

<数学> 平均点は61点で、大阪府と比較して7.1点、大阪市と比較して6.7点上回る結果であった。

平均無回答率は8.6%で、大阪府と比較して3.5ポイント、大阪市と比較して2.5ポイント良い結果であった。

<理科> 平均点は51.7点で、大阪府と比較して5.7点、大阪市と比較して5.2点上回る結果であった。

平均無回答率は6.5%で、大阪府と比較して4.5ポイント、大阪市と比較して2.9ポイント良い結果であった。

<英語> 平均点は64.4点で、大阪府と比較して11.2点、大阪市と比較して10点上回る結果であった。

平均無回答率は3.9%で、大阪府と比較して3.5ポイント、大阪市と比較して2.6ポイント良い結果であった。

・全ての教科で大阪府平均・大阪市平均を上回った結果であった。今後も継続して良い結果が出るよう、また更なる向上を目指して教育活動を進めていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)において

<成果>

平均正答率は、「リーディング」「リスニング」「ライティング」「スピーキング」すべての項目で大阪市平均を上回る結果であった。

特に「ライティング」は16.7点、「リーディング」は11.4点大阪市平均を大きく上回る結果であった。

<課題>

今後も継続できるように英語力の向上に取り組んでいく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

<成果>

男子は、8種目中「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」の6種目で全国平均を上回る結果であった。

女子は、8種目中「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」の6種目で全国平均を上回る結果であった。

男子の「立ち幅とび」は、全国平均と比較して8.79点下回ったが、それ以外の種目で全国平均を下回った男子の「ハンドボール投げ」、女子の「50m走」「ハンド

ボール投げ」は、全国平均とほぼ同等の結果であった。

男子の体力の合計点の平均は、43.51点で全国平均を1.31点上回る結果であった。

女子の体力の合計点の平均は、50.54点で全国平均を2.96点上回る結果であった。

生徒質問調査で質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答で「好き」と回答した男子は69.6%で全国平均と比較して1.2%上回る結果であった

が、女子は41.3%で全国平均と比較して1.7%下回る結果であった。

1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合について、男子は8.9%で全国より0.5%少ない結果であったが、女子は33.8%で全国より12.4%多い結果であ

った。

<課題>

保健体育の実技の授業前に柔軟性を高める運動や筋力を高める運動を積極的に導入しており、その成果が上がっている。

今後も継続して行い、全種目が全国平均を上回るように取り組んでいく。

「運動・スポーツ好き」「運動時間」について、男子は全国を上回っているが、女子はどちらも下回っている。

今後、男女とも「運動・スポーツ好き」「運動時間」を増やせるよう、運動の大切さやスポーツのすばらしさを伝え、楽しく体力向上が出来るように取り組んでいく。

○中学生チャレンジテスト(1年生、2年生)、中学生チャレンジテストplus(1年生)

<成果>

1、2年生ともに全教科において、大阪府平均および大阪市平均を上回る結果であった。

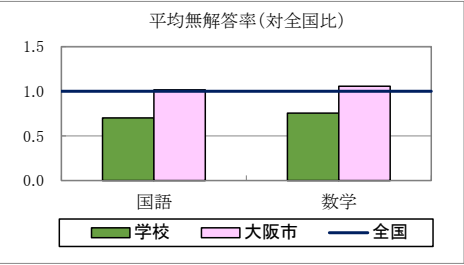
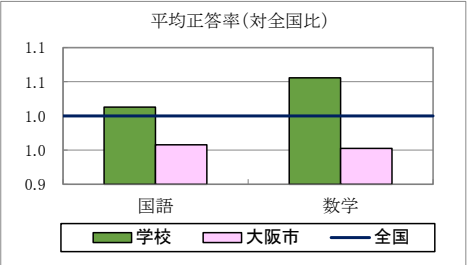
令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ  
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	55	51
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.7	8.0
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

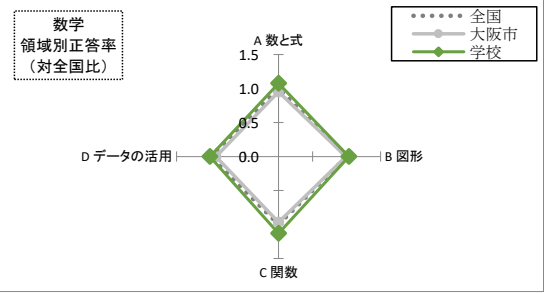
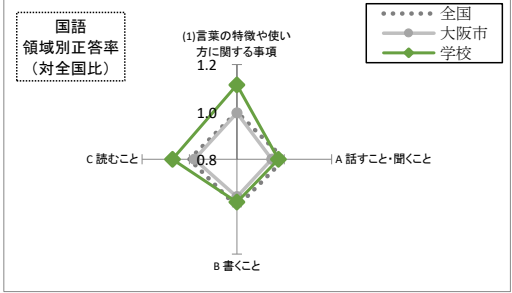
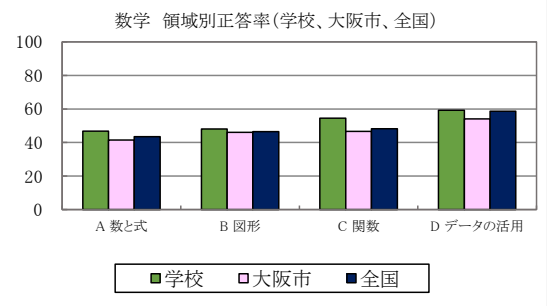
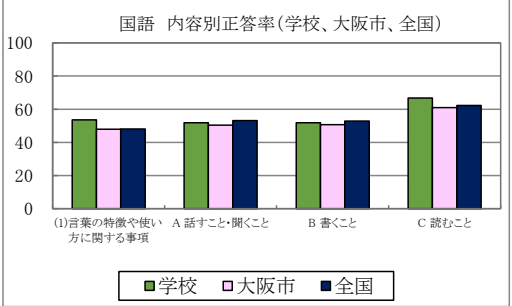


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	53.6	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	51.9	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.8	50.6	52.8
C 読むこと	3	66.8	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	46.8	41.4	43.5
B 図形	4	48.1	46.1	46.5
C 関数	3	54.5	46.6	48.2
D データの活用	3	59.2	54.0	58.6

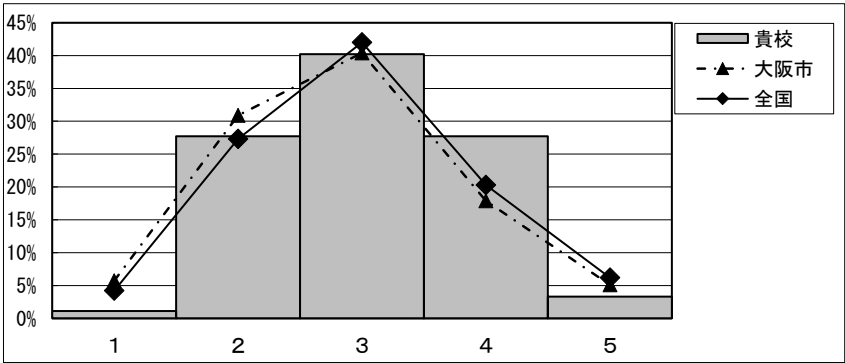
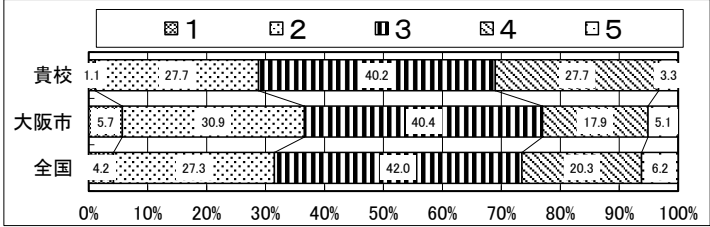


令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ  
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	511
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

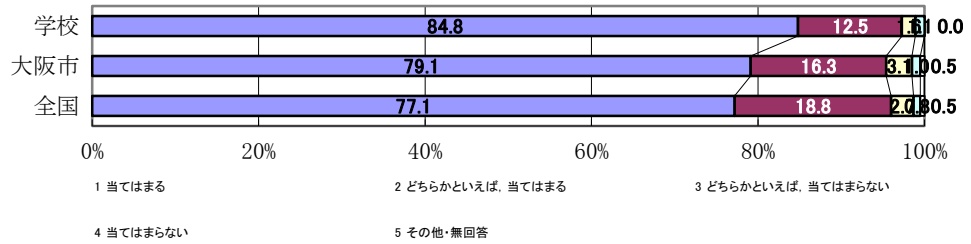
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

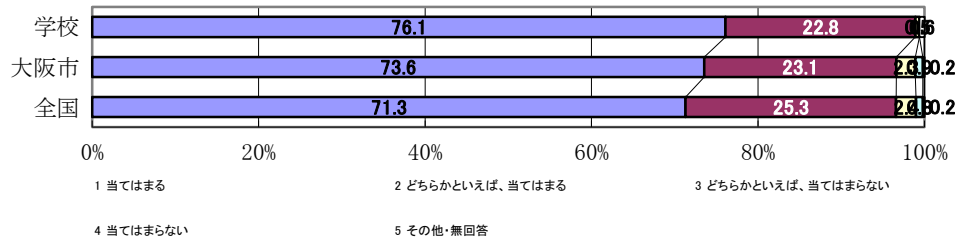
9

いじめは、どんな理由があってもいけなないことだと思いますか



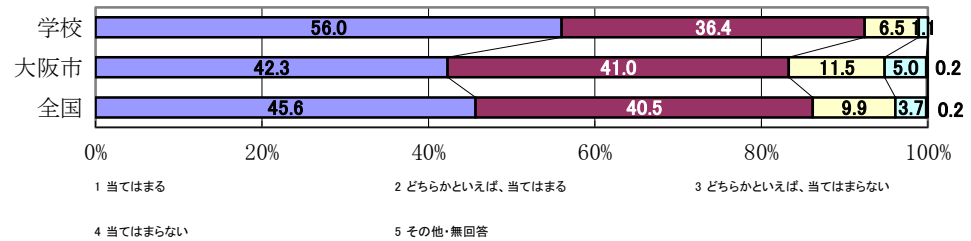
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



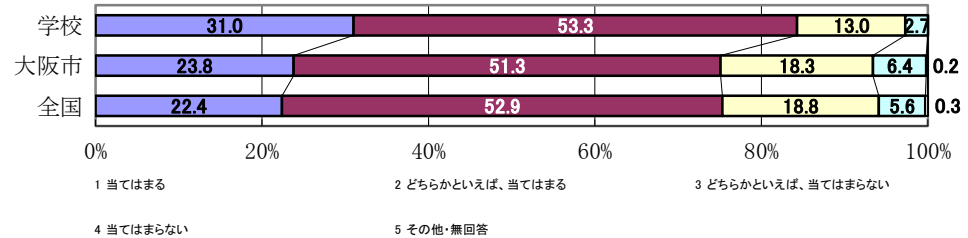
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



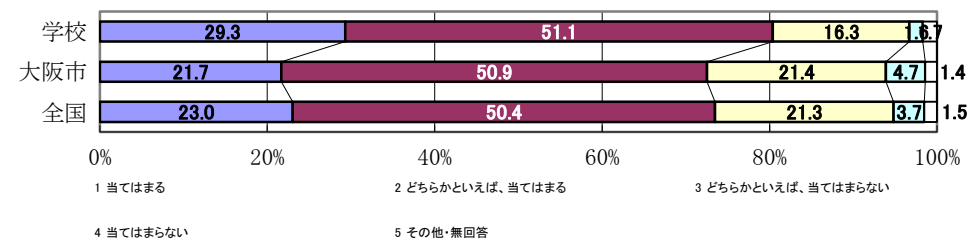
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



36

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



# 令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

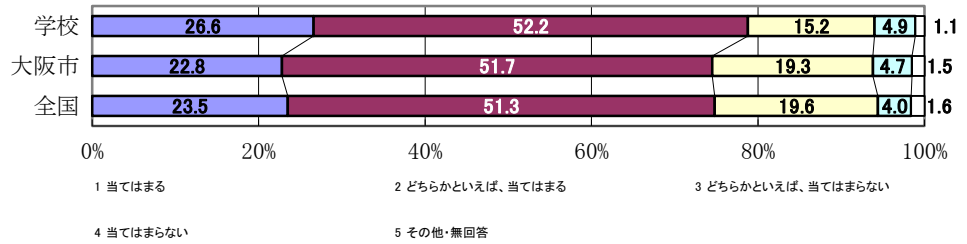
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

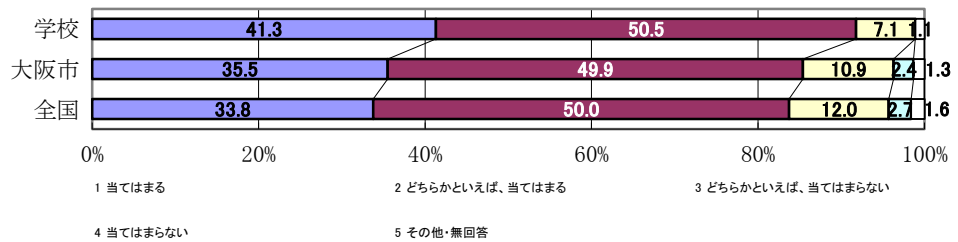
37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。



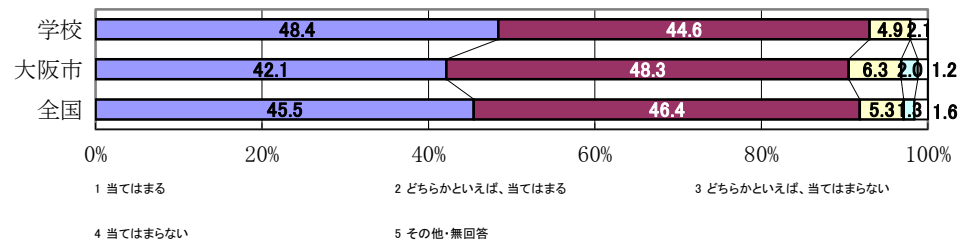
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



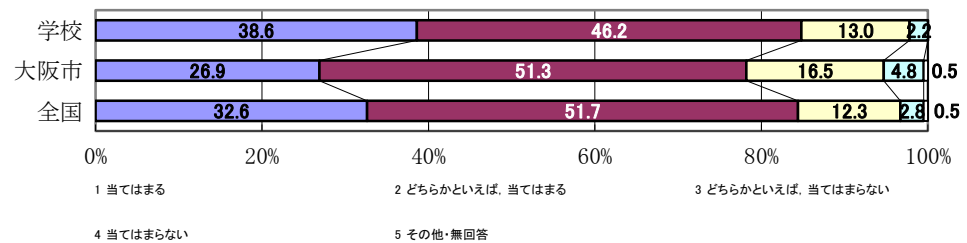
39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



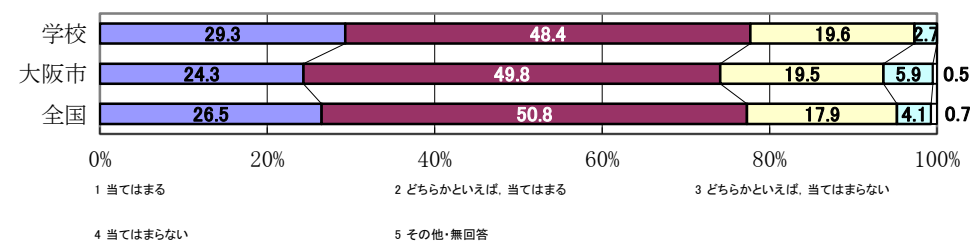
41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



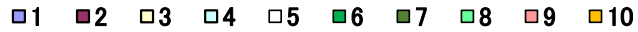
42

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。



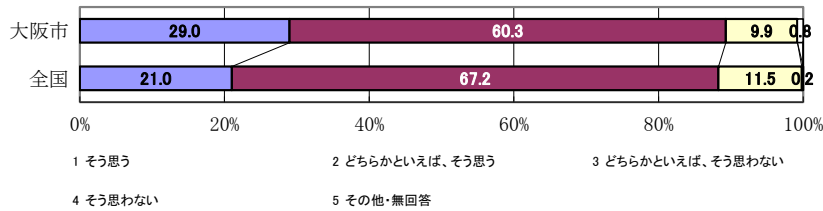
# 令和7年度 鯉江中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より



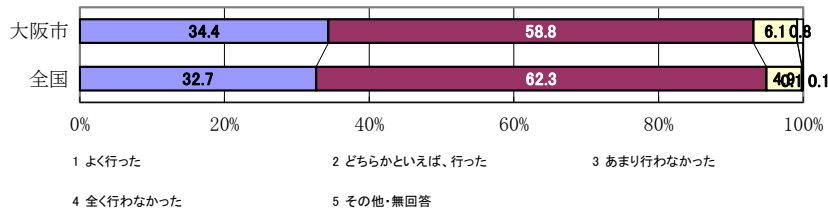
質問番号
質問事項
25
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



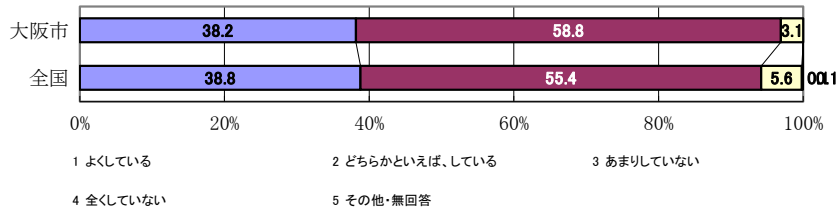
質問番号
質問事項
31
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



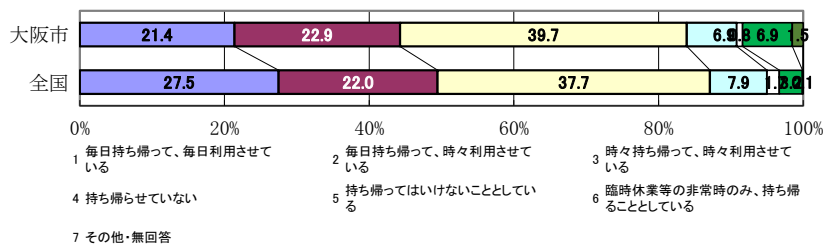
質問番号
質問事項
37
調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるように指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



質問番号
質問事項
66
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択



質問番号
質問事項
84
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)

学校 「よく行った」を選択

